

## 事業所における自己評価結果

公表:平成31年2月28日

回答数 17 名

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	・利用定員に適したスペースを随時、確認して確保しています。	
	2 職員の配置数は適切である	100%	0%	・適切に配置しています。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	100%	0%	・事務所内の改修工事を実施し、設備等は利用者に利用しやすいように改善しています。 ・利用者一人ひとりの特性に応じて構造化し、配慮した環境を整えています。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100%	0%	・活動、年齢や発達に合わせた環境設定にすることにより、子どもに適した空間となっています。 ・衛生チェック表を活用して、清潔な環境を維持しています。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%	・専門職との支援会議、クラスの打ち合わせおよび職員会議等、会議の機会を多く持ち、各自の勤務時間に応じてすべての職員が参加できるように工夫しています。 ・日常的に職員間で話し合いを持ち必ず振り返りを行い、常にPDCAサイクルを意識して実践することでその結果を次の業務に活かす取り組みをしています。 ・職員一人ひとりがPDCAサイクルを自己評価に活用しています。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	・定期的に担任や副室長面談を実施することで保護者の話をより丁寧に聴き取り、意向を把握して運営や対応に活用しています。 ・第三者評価や事業所評価の結果を職員で話し合い分析し、課題を抽出して改善につなげています。	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価をするとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	・職員会議の中で評価表の結果を踏まえて話し合い、今後に向けての取り組み等を区のホームページ等に公開しています。	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	100%	0%	・第三者評価を定期的に受け、評価結果を職員間で共有して、課題の取り組みに反映させ改善につなげています。 ・結果を受けて、環境整備や保護者の気持ちに寄り添う支援をより充実させています。	
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	・職場研修(OJT)を定期的に行っています。 ・専門職による職場研修を継続的に実施しています。 ・最新の情報や知識と技術を意識して取得するために自己研鑽を行っています。 ・育成室職員合同研修、職場研修を計画的に実施し、報告会等を行い職場で研修内容を活かしています。 ・自己研鑽で習得したことをOJT、職員打ち合わせ等で報告し、全職員で共有して質の向上に努めています。	

適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100%	0%	・入室面談、個別面談を実施して本人及び保護者よりのニーズを丁寧に聴き取り、児童発達支援計画に反映させています。 ・専門職とクラス担任がアセスメントの情報を共有し、児童発達支援計画を作成しています。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%	・専門職と連携して実施しています。 ・MEPAを活用しています。 ・発達検査を行い、結果を活用しています。 ・在籍児童の状況に適したものを検討して利用しています。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び以降支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100%	0%	・児童発達支援ガイドラインの内容に沿って、本人に適した目標設定を行い具体的な支援を行っています。 ・児童発達支援ガイドラインの内容を職員間で確認し、療育課程を作成して実践に活かしています。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%	0%	・児童発達支援計画をもとに、必要な課題を療育内容に取り入れ、職員間で支援について話し合い、実施内容を工夫しています。 ・児童発達支援計画の内容を保護者と確認して共通認識のもと、課題についての取り組みを行っています。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	・クラス打ち合わせの際に専門職も参加し、担任全員で話し合いプログラムを作成しています。 ・年間計画案や月案等をクラスで話し合い、職員会議の場で全職員が参加して活動プログラムを立案しています。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	・繰り返し体験することで身につくことも考慮しながら、様々な視点で療育を工夫して行っています。 ・プログラム内容を一覧にして確認し、マンネリ化しないようにしています。 ・立案から活動に至るまで、グループごとに児童発達支援管理責任者を配置して実践内容を工夫しています。 ・利用者のニーズや季節に合わせた活動も取り入れ、プログラムに変化を持たせています。 ・他クラスの活動や、専門職のアドバイスを参考にして工夫しています。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	100%	0%	・各クラスの児童発達支援管理責任者を中心にクラスで共通認識を持って必要項目を作成しています。 ・個別訓練担当職員と相談して個別活動と集団活動の特徴を活かし、スモールステップで目標を達成できる児童発達支援計画を作成しています。 ・リハビリ・生活動作・認知・コミュニケーションの専門チームで療育を行っています。 ・専門職員も集団活動に参加し、多方面からの意見を児童発達支援計画に活かしています。

	17	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	・児童発達支援管理責任者が中心となり前日・当日に打ち合わせや準備および活動のシミュレーションを行い、支援内容や役割を明確にしています。 ・支援内容や担当者等をクラスの打ち合わせノートに記載し確認することを習慣化しています。 ・確認のための資料を作成し、打ち合わせに参加できなかった職員とも内容を共有する工夫をしています。	
適切な支援の提供	18	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有している	100%	0%	・活動や個別支援内容の詳細について、職員間で評価や反省をすることを習慣化しています。 ・子ども達へのかかわり方等を職員間で話し合い、共有したことを次の実践に活かしています。 ・口頭での確認に加え日誌や個別記録等に記載し、職員間で内容を振り返り共有できるようにしています。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	・日々の反省を検証し、週・月の反省に反映させることで活動内容の質の向上に努めています。 ・日々の支援内容を日誌、個別記録などに記載し、記載内容を職員間で検証して改善したものを次の活動で実践できるようにしています。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	・専門職やクラス担任等が在籍児一人ひとりの発達状況等を共有し、適した時期に定期的にモニタリングを行い児童発達支援計画を見直し、チームで判断して実施しています。	
関係機	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通したもっともふさわしいものが参画している	100%	0%	・積極的に会議の会場を提供することにより、サービス担当者会議には参加すべき職員がすべて関わることで有意義な会議を実施することができています。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	100%	0%	・区立事業所として様々なネットワークを活用し、健康サポートセンター・子ども家庭支援センター・関係機関等の機能を活かして連携した支援を実施しています。 ・関係者会議の記録をとり、随時、状況に適した対応ができるように連携機関と連絡をとり支援しています。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子どもを支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			医療的ケアが必要な子どもは在籍していません。区外の地域療育連絡会、区内の小岩・西小岩地域子育て関係施設等連絡会、小岩南部・鹿骨地域子育て関係施設等連絡会、中央地区子育て支援関係施設等連絡会、一之江地区子育て支援関係施設等連絡会、発達障害庁内連絡調整会議、発達障害支援会議に出席するなど、関係機関との連携を図っています。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			・現在、医療的ケアの対象となる子どもは在籍していませんが、医療的ケアについては保護者が主に行い、育成室では主治医に意見書等を依頼し連携を図っています。 ・小児科、神経科、整形外科の医師が協力医療機関となっており、毎月、健康診断を実施して保護者の相談にも対応できるように連携体制を整えています。	

関 や 保 護 者 と の 連 携	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%	0%	・幼稚園、保育所等訪問支援を実施している児童発達支援センター等と情報の共有を行う等して連携しています。 ・児童発達支援センターや保育園発達支援コーディネーターおよび就学先等と連携しています。 ・保護者の要望に応え、併用児の通園先等との情報の共有、育成室への他機関の訪問見学等を通して相互理解を図っています。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%	0%	・引継ぎ資料の作成、移行先と引継ぎのための面談を実施しています。 ・保護者の依頼により就学支援シート等を作成し、書面にて情報の共有を実施しています。 ・家族講座を開催して、教育委員会学務課相談係の担当者による就学に向けての説明会を実施しています。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%	0%	・区の直営の施設として情報連絡会や研修に参加する等して、発達障害支援センター等の専門機関と連携しています。 ・専門機関に講師を依頼して、職員や保護者を対象とした研修や講演会を実施して助言を受けています。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	100%	0%	・近隣の認可私立保育園と40年以上、互いの施設を定期的に訪問して、継続的に交流を行い理解を深めています。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	100%	0%	・室長・副室長を中心として職員が必ず参加し、会議の内容の報告を行い職場で共有しています。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	・専門職と保育士が連携を図り、専門性を活かして伝えることで子どもの状況や課題をより共通に理解できるようにしています。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	100%	0%	・面談や相談の場面でペアレント・トレーニングを活用したアドバイスを行っています。
保 護 者 へ の 説 明 責 任 等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	・クラス懇談会等の様々な機会を利用して丁寧な説明を行っています。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100%	0%	・児童発達支援ガイドラインのねらいや支援内容については全ての職員が共通認識をもち、保護者に直接、説明する機会を設け、ご理解いただけるように努めています。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	・研修を通じて保護者対応についての職員の専門性を高め、適切な対応ができるようにしています。 ・相談内容について職員間で共有し、支援を行っています。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	100%	0%	・職員が話しやすい雰囲気づくりや話題の提供を行い、交流が円滑に行われるようにしています。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	・当施設以外に、区の相談・苦情窓口や第三者委員にて相談を受け付けています。 ・相談や申入れの際には職員で内容を共有し、組織やチームとして迅速に対応しています。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	・行事予定については掲示板に掲出する等、様々な連絡方法で伝えています。 ・活動内容については具体的にホワイトボードに記載してわかりやすく伝える工夫をしています。

	38	個人情報の取扱いに十分注意している	100%	0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区の個人情報保護制度・個人情報保護条例の解釈・運用を遵守し、個人情報保護のマニュアルを作成して個人情報の取り扱いや管理を徹底しています。</li> <li>・定期的に職員はe ラーニングを受講し、個人情報保護について学習しています。</li> </ul>	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりの子どもの発達状況や特性に応じて情報伝達や意思確認ができる方法を工夫しています。</li> <li>・保護者とのパートナーシップを大切に、日常的にコミュニケーションをとる工夫をしています。</li> </ul>	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	100%	0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋祭り・ひな祭り・卒室式に地域の方を招待し、育成室の運営や事業を理解してもらう機会としています。</li> </ul>	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	100%	0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場研修等で機会を設定し、様々な状況を想定した実践的な訓練を実施しています。</li> </ul>	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非常災害訓練年間計画を作成し、毎月、様々な災害を想定した訓練を行っています。</li> <li>・毎月の訓練に保護者が参加することで、非常災害時の対応ができるようにしています。</li> <li>・様々な非常災害時の状況を想定し、職員が的確に役割が果たせるように訓練を積み重ねています。</li> </ul>	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	100%	0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入室前面接や利用契約時に保健師と保護者の面談を実施し、予防接種や健康状態等を把握して児童状況票に記録しています。その後の受診状況や体調の変化等の経過も追記しています。</li> <li>・児童状況票に記録した内容を職員間で共有しています。</li> </ul>	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食物アレルギーの対応が必要な子どもは、医師の指示書(生活管理指導票)を提出してもらい、保健師が保護者と面談をして面談内容を全職員に周知して適切に対応しています。</li> </ul>	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒヤリハット事例が発生した際は専用のノートに記載し、日々のミーティングにて共有しています。</li> <li>・年度末には事例の件数を集計し、分析して再度振り返り、次年度の対応に活かしています。</li> </ul>	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・虐待防止には全区的に力を入れた取り組みを実施しているため、職場内外で様々な研修を全職員が受講する体制が整備されています。</li> <li>・職場研修や区で実施する研修を継続的に受講することで、虐待防止への対応能力が向上しています。</li> </ul>	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	100%	0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までそのようなことはありませんが、療育上やむを得ず行うことがある場合は、職員会議等で詳細について具体的に決定し、職員間で対応を統一するとともに、事前に保護者に丁寧に説明し、意見を聴き了承を得た上で児童発達支援計画に記載することとしています。</li> <li>・心理職員や児童発達支援管理責任者を中心として、子ども自身が持っている力を信じて見守る支援を大切にしています。また、環境の構造化を活用して身体を拘束することのない支援を基本としています。</li> </ul>	